

在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

研究組織 加藤雅人、友田正彦、片渕奈美香、清水綾子(以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子、米沢玲(以上、文化財情報資料部)、小杉則彬、佐々木薫(以上、研究支援推進部)、大河原典子、杉山恵助(以上、客員研究員)

目的 日本の文化財は、欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にはほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財の保存修復に関する助言等の協力を行う。また、本格的な修復が必要な絵画作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、日本とは異なる条件にある海外所在作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、その成果を公開、共有する。

成果

令和4年度は、令和3年度に引き続き、修復中の作品の作業を進めた。また、海外の博物館2館において調査を行った。さらに、本事業の概要を掲載する報告書の作成・編集を行った。

1. 作品修復

- 以下の2作品について修復を進めた。
 - ア) モントリオール美術館(カナダ)所蔵 女房三十六歌仙扇面貼交屏風 紙本金地着色 屏風6曲1双
 - イ) モントリオール美術館(カナダ)所蔵 熊野曼荼羅 絹本着色 掛軸1幅
- 上記2作品について、所蔵館学芸員を招聘して中間視察を実施した。招聘期間は2023(令和5)年1月24日～29日。オンラインを併用し、フランス滞在中の所蔵館コンサバターも参加し、進捗状況の報告、今後の修復方針についての確認及び協議を行った。

2. 作品調査(スイス)

2023(令和5)年2月20日～26日に下記2館を訪問し、所蔵作品の調査並びに展示・保存の環境及び手法の視察を行うとともに、保存に関する助言を行った。

ア) パウアー財団東洋美術館(ジュネーブ)

屏風1作品

イ) リートベルク美術館(チューリッヒ)

掛軸18作品、屏風1作品

3. 報告書作成

本事業の概要を表す基本情報について、令和4年度の業績を反映した報告書の作成及び編集を行った。(刊行は令和5年度の予定)



作品修復の中間視察



リートベルク美術館での調査